

水稻の生育状況（7月25日現在）と栽培上の留意点について

発信日：2025年7月30日

1 生育状況

7月25日現在の水稻の生育状況は、平年値(2015～2024年までの過去10年平均)と比べて、表1のとおりです。

表1 水稻の生育状況(7月25日現在)

品種	移植時期	草丈	茎数	葉色
はるみ	6月上旬	同等	多い	やや薄い
	6月中旬	やや長い	多い	同等
キヌヒカリ	6月上旬	やや長い	多い	やや薄い
	6月中旬	長い	同等	薄い
てんこもり*	6月上旬	長い	多い	同等
	6月中旬	やや長い	多い	やや薄い

*2018～2024年までの過去7年平均との対比

2 栽培上の留意点

気象庁が7月24日に発表した1か月予報(7/26-8/25)では、気温は「高い」、降水量は「ほぼ平年並み」、日照時間は「平年並みか多い」の見込みとなっています。

今後の栽培管理については、次の点に留意してください。

(1) 出穂期

出穂期は、7月25日現在の生育状況と今後の気象予報から平年と比べてやや早いと予想されます(各品種における平年の出穂日については表2を参照)。

表2 農業技術センター(平塚市)での過去10年(2015～2024)平均の出穂日について

移植時期	はるみ	キヌヒカリ	てんこもり*
6月上旬	8月10日	8月8日	8月14日
6月中旬	8月15日	8月14日	8月19日

*2018～2024年までの過去7年平均

(2) 追肥

追肥は、稲の生育調整と後期の生育維持のために行います。出穂後に高温が続くと生育後半に窒素不足になりやすく、白未熟粒の発生が多くなるため、適切な追肥管理を行い、登熟期に肥料切れがおこらないようにしましょう。

(3) 水管理

穂ばらみ期から登熟初期(出穂期15日前から出穂期10日後)までの期間は、稲が最も水を必要とする時期なので、水を切らないようにしてください。

また、出穂後に高温が続く場合は、高温障害により白未熟粒や胴割粒などの発生が多くなるため、常時湛水状態にしないよう注意し、「かけ流しかん水」を行いましょう。かけ流しが困難な地域では「間断かん水」を行いましょう。

(4) 水田周辺の雑草管理

「斑点米カメムシ類」（写真1）は水田周辺の雑草に生息し、出穂期になると水田内に侵入し、籾を吸汁して斑点米を発生させ、落等の要因となります（写真2）。本年は「アカスジカスミカメ」と「アカヒゲホソミドリカスミカメ」の予察灯への誘殺数が平年と比べて多くなっています。日頃から畦畔や水田周辺の除草管理を徹底しましょう。ただし、出穂期頃の除草は、水田に斑点米カメムシ類を追い込むため、畦畔雑草の除草は出穂10日前までに終わらせましょう。



アカヒゲホソ
ミドリカスミカメ



アカスジ
カスミカメ



ホソハリカメムシ



クモヘリカメムシ



斑点米（写真2）

斑点米カメムシ類（写真1）

(5) 「イネカメムシ」の発生に注意（写真3）

県内各地で「イネカメムシ」の発生が確認されています。本虫は籾の基部を加害して不稔籾を発生させるため、他の斑点米カメムシ類と異なり、発生量が多いと大幅な減収となる可能性があります。また畦畔雑草に飛来せず、直接水田内へ飛来する特徴があり、特に高温時は出穂期前に飛来し早期から繁殖する可能性があります。

そのため、「イネカメムシ」による不稔籾の発生を防ぐために、出穂期に防除を行ってください。また、発生地域が拡大傾向にあるので、昨年発生が見られなかった水田でも注意してください。



イネカメムシ
（写真3）

※ この他の病虫害防除対策は、病虫害防除部の「令和7年度病虫害発生予察情報」を参照してください。

https://www.pref.kanagawa.jp/docs/cf7/cnt/f450002/2025_4_01.html



※ また、薬剤防除を行うときは、病虫害防除部の「令和7年度防除情報（病虫害情報号外第4号）」を参考に、適切な農薬使用をお願いします。

https://www.pref.kanagawa.jp/documents/119680/20250630_gogai.pdf



(6) 紋枯病

近年、「紋枯病」の発生が多くみられています。「紋枯病」は、高温・多湿条件で多発し、稲が倒伏しやすくなります。

特に‘はるみ’、‘てんこもり’は紋枯病に対してやや弱いいため、発生に注意してください。昨年発生が見られた水田では穂ばらみ期（出穂15日前から出穂期）までに防除を行いましょう（写真4）。



紋枯病（写真4）

(7) ナガエツルノゲイトウ

「ナガエツルノゲイトウ」の発生地域が拡大しています。水田に疑わしい雑草が見られた時は、最寄りの JA または農業技術センターに連絡してください。

なお、ナガエツルノゲイトウの防除は農業技術センターホームページに掲載している世界最悪の侵略的植物「ナガエツルノゲイトウ」に警戒を！を参照してください（写真5）。

<https://www.pref.kanagawa.jp/documents/88221/r6nagaeboujyo.pdf>



ナガエツルノゲイトウ（写真5）

(8) 台風対策

台風の襲来が予測される場合、被害の回避や軽減のため、次の対策が有効です。

台風などの大雨時の用排水路や水田等の見回りは大変危険です。気象情報及び周囲の状況を十分に確認し、安全な状況になるまでは行わないようにしてください。

ア 事前防止対策

- ・ 用排水路に詰まり等が無い点検します。定期的に清掃を行うことで、浸水及び冠水時の速やかな排水に備えます。
- ・ 可能な地域では、深水管理を行い、急性萎ちょうや倒伏防止に備えます。

イ 事後対策

- ・ 損傷で茎葉からの蒸散量が多くなるので、台風通過後は湛水を保ちます。
- ・ 風台風、特に台風が北側を通過する場合は、潮風害（塩害）を受けやすいため、台風通過後、可能な場合は動噴等を利用して真水を散布し、洗い流します。
- ・ 台風通過後に病害虫が発生することがあるので、病害虫防除部の「令和7年度病害虫発生予察情報」に注意します。

問合せ先

神奈川県農業技術センター

普及指導部 作物加工課

T E L : 0463-58-0333 内線 381～384